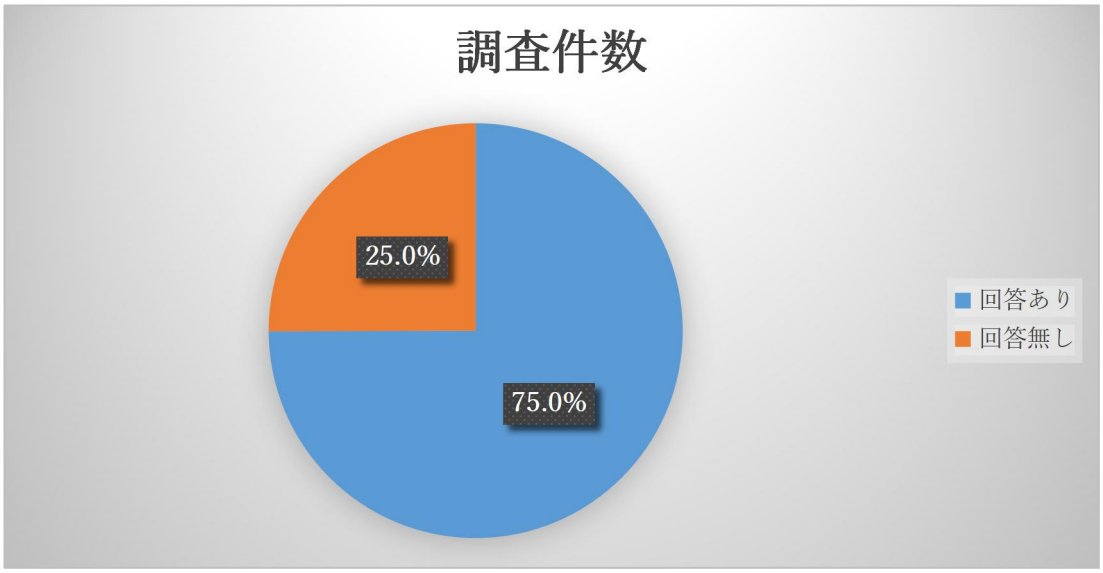
令和２年度　婦人会委託業務　集計結果

【調査件数】

調査数　2040　（配布数）

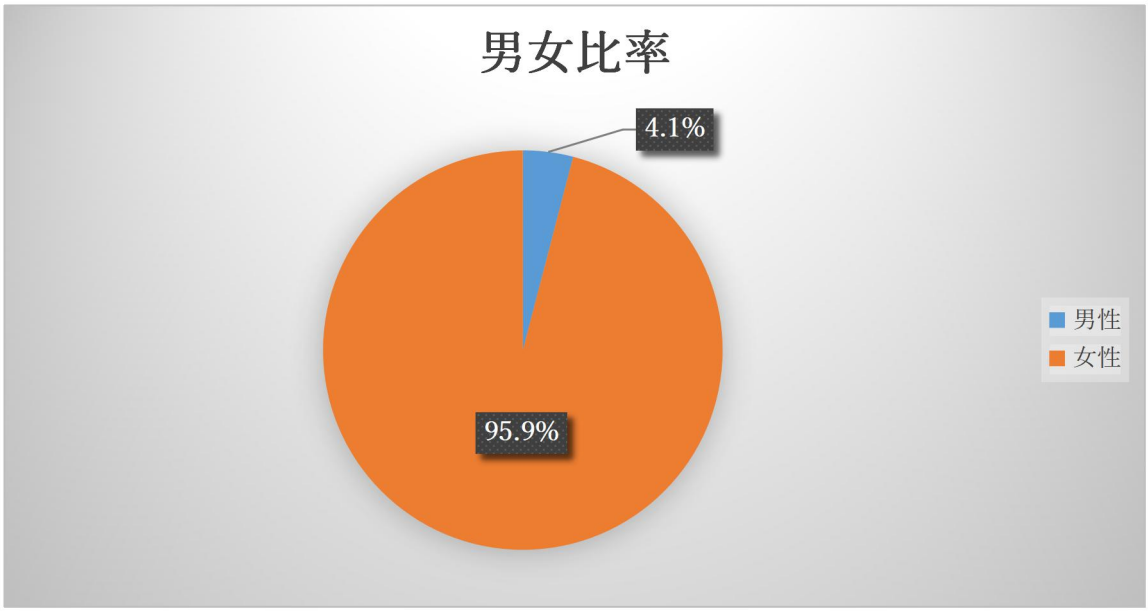
回答数　1529　（n=1529）

回収率　75.0%



【男女比】

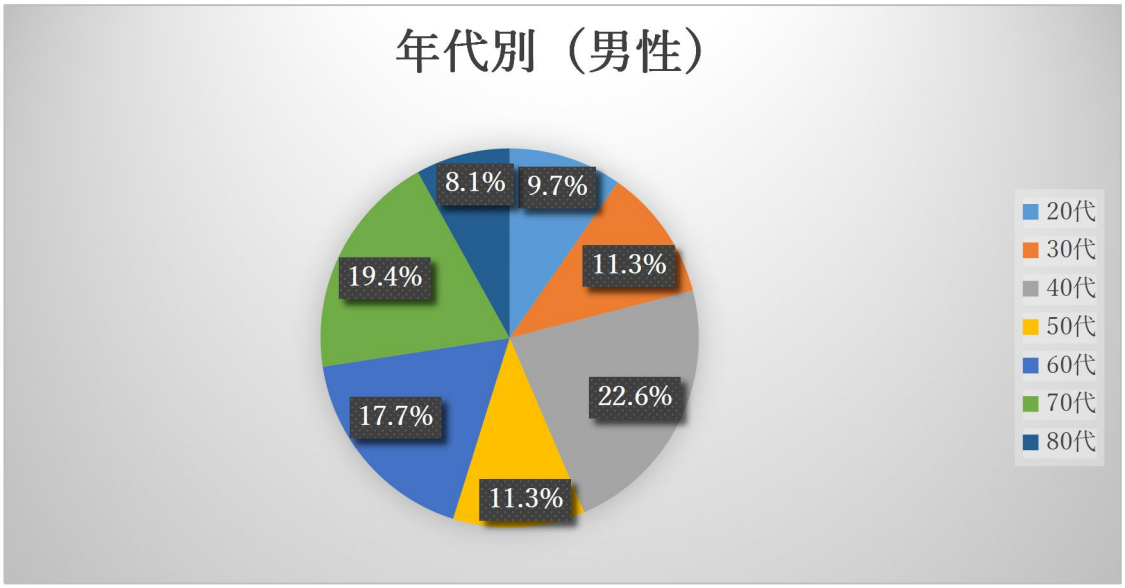
男性 62 名（4.1%）　女性 1467 名（95.9%）



【年齢比率】

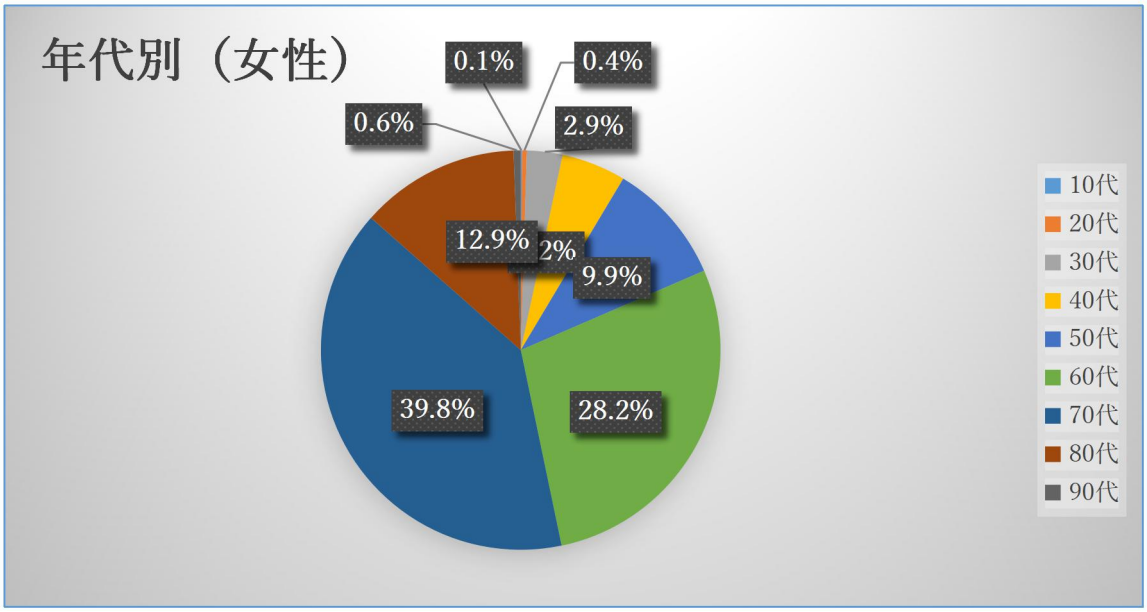
◯男性　62 名

・20 代　6 名（9.7%）、30 代　7 名（11.3%）、40 代　14 名（22.6%）
50 代　7 名（11.3%）、60 代　11 名（17.7%）、70 代　12 名（19.4%）
80 代　5 名（8.1%）



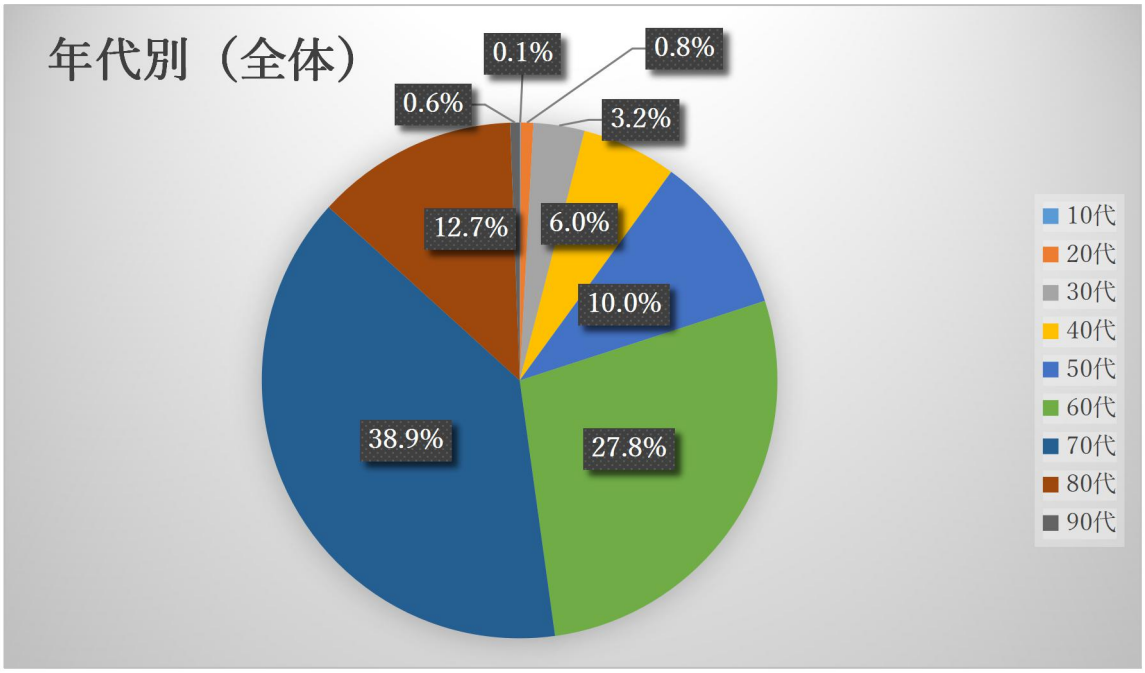
◯女性　1467 名

・10 代　1 名（0.1%）、20 代　6 名（0.4%）、30 代　42 名（2.9%）、
40 代　77 名（5.2%）、50 代　146 名（9.9%）、60 代　414 名（28.2%）
70 代　583 名（39.8%）、80 代　189 名（12.9%）、90 代　9 名（0.6%）



〇全体　1529 名

10 代　1 名（0.1%）、20 代　12 名（0.8%）、30 代　49 名（3.2%）、
40 代　91 名（6.0%）、50 代　153 名（10.0%）、60 代　425 名（27.8%）
70 代　595 名（38.9%）、80 代　194 名（12.7%）、90 代　9 名（0.6%）



１．「しまねの７ヶ条の」取組実績・感想について

●L　冷蔵庫の中身をチェック後、お買い物

①取組実績（総数 1529）

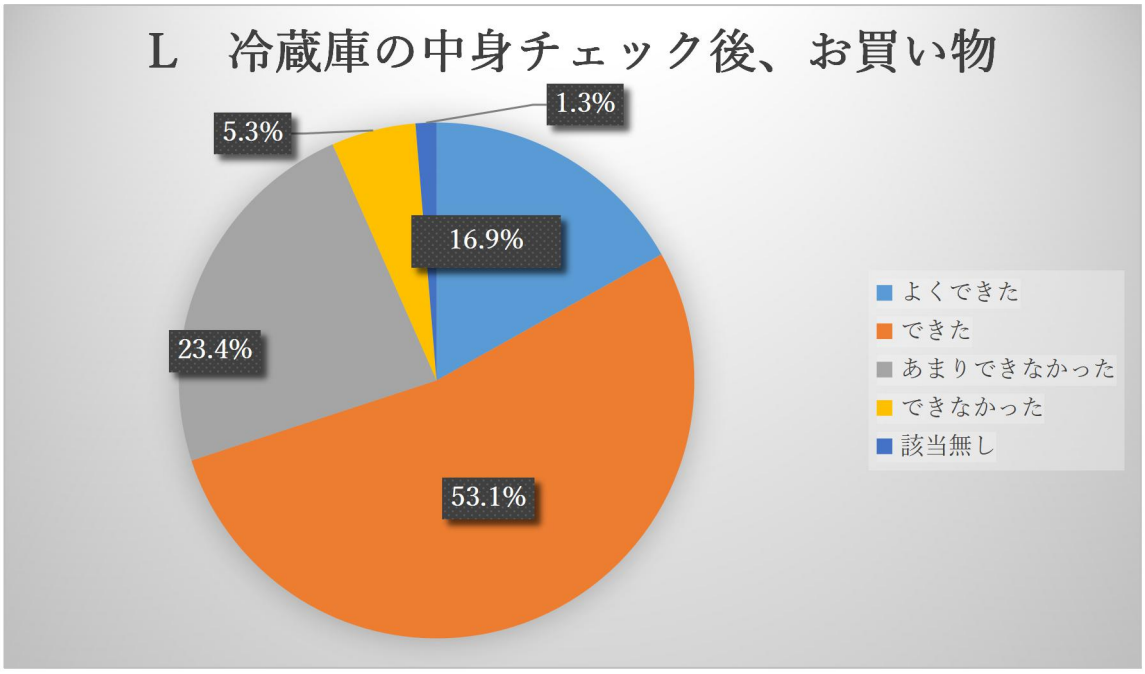
・よくできた　16.9%（258）

・できた　53.1%（812）

・あまりできなかった　23.4%（358）

・できなかった　5.3%（81）

・該当なし　1.3%（20）



②感想

【要旨】

元から取り組んでいたという意見も一定数存在し、比較的取り組みやすい項目であった。また、普段から取り組まれている内容だからこそ効果を肌で感じやすい項目であった。

反対に取り組めなかった例としては、安売りや特売品などをついつい買ってしまったり、仕事帰りや出先で買い物をしたりすることから取り組むこと自体が難しかったという意見が挙がった。

買い物に行くタイミング（週１回や曜日など）を決める、買い物時に購入したものや必要なものをメモする等の方法で、冷蔵庫の中身を確認する過程を省く方法も挙がった。

●O　美味しく適量いただきます

①取組実績（総数 1529）

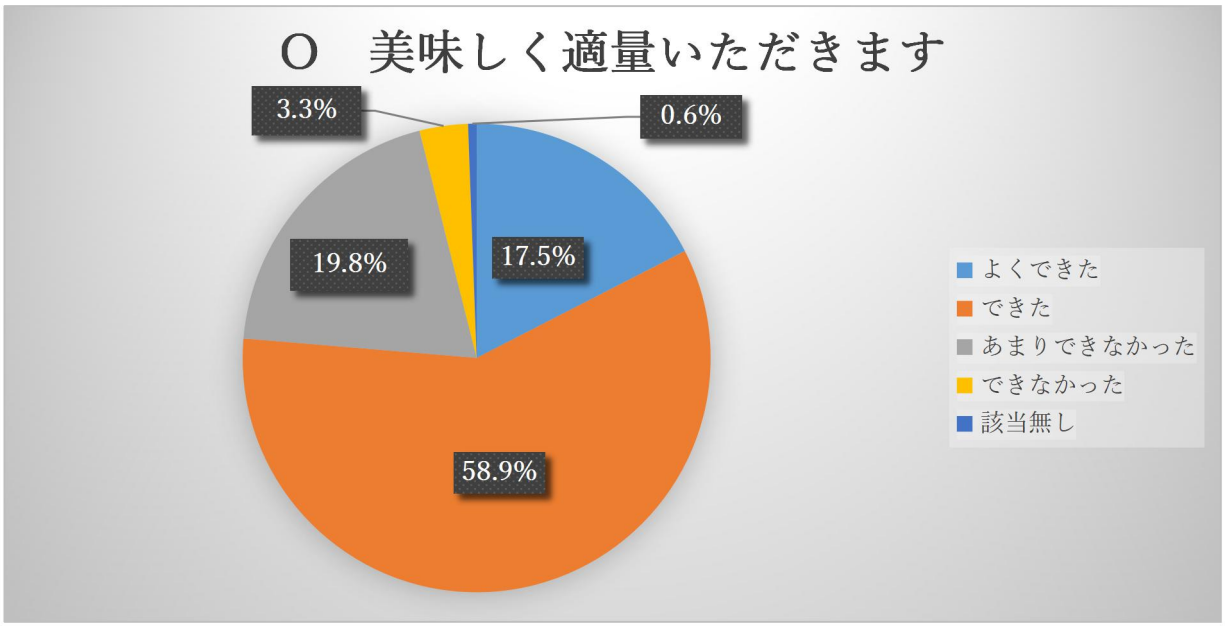
・よくできた　17.5%（267）

・できた　58.9%（900）

・あまりできなかった　19.8%（302）

・できなかった　3.3%（51）

・該当なし　0.6%（9）



②感想

【要旨】

家族構成やライフスタイルにより実践方法や意見が分かれる項目であった。

食べ盛りの子どもがいる、家族が多い場合、作ったものが余り捨ててしまう事態が起きにくいという意見や、たくさん食べるので敢えて多く料理を作る場合もあるという意見があった。また、一人暮らし、核家族、高齢の方のみの場合、料理が余ってしまう場合が起きやすいという意見が多かった。

作りすぎてしまう品目では、煮物類や鍋類が挙げられた。

余った料理も翌日いただく、冷凍保存して後日いただく、弁当として持って行く、アレンジ料理にする等、様々な方法がとられ、実際に食べる際にも小皿の活用やワンプレートに盛り付ける等の工夫が行われていた。

また、外食の際にも、少なめに注文し、足りない分を追加注文するや余ったものを店から提供されるケースに入れて持ち帰るといった方法で取り組まれた方もいた。

それぞれのライフスタイルに合わせた取組を行うことが食品ロスを減らす最も有効な方法の一つであり、一概にこれが正しいと決めることが難しい項目だということが分かった。

●S　週末は残り食材で作りましょう

①取組実績（総数 1529）

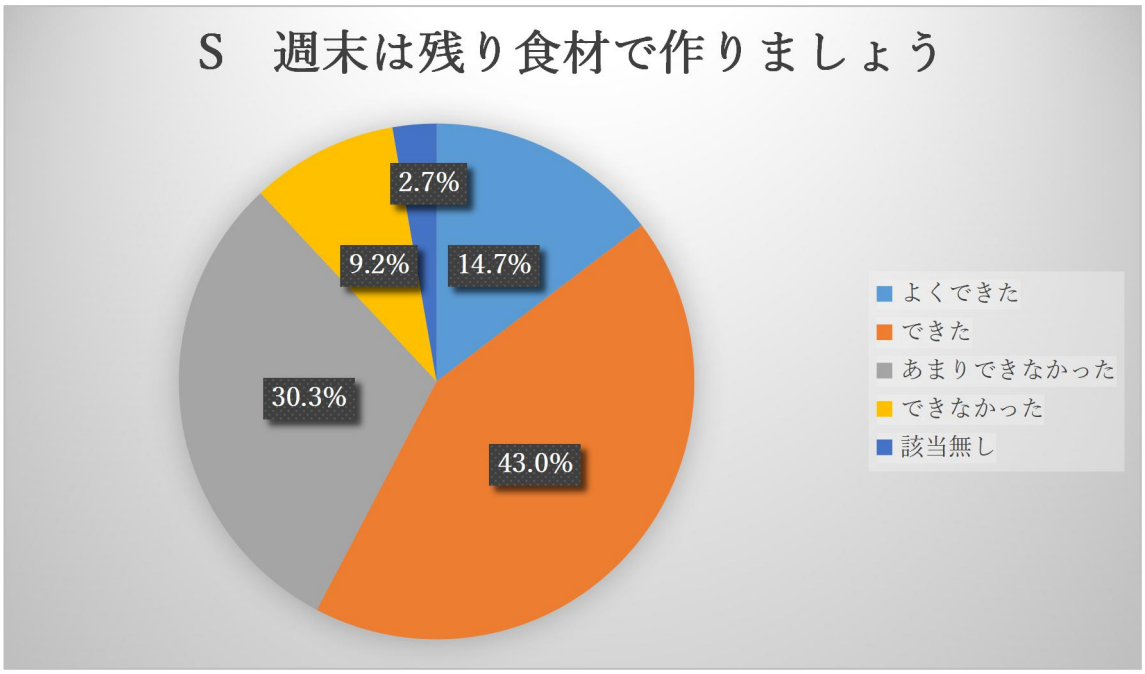
・よくできた　14.7%（224）

・できた　43.0%（658）

・あまりできなかった　30.3%（464）

・できなかった　9.2%（141）

・該当なし　2.7%（42）



②感想

【要旨】

週末と限定すると取り組むことが難しいという意見が目立った。

週末こそ買い物に行き食材を買い貯めたり作り置きをする方や、週末に家族が帰ってくる方が多かった。残り食材を活用するという面では、コロナ渦の影響もあり、買い出しへの回数が減ったことから、取り組めた方も多かった。

取組自体は、いろいろな面で節約ができたという意見や、実際に取り組んでみると意外と冷蔵庫の余り物で料理が作れたという意見が目立った。

この取組の目的は、残り食材を上手に活用することで家庭からの食品ロスを削減し、家にある余り食材を把握するきっかけを作ることであるため、週末に限定せず他の表現を用いた方が好ましいと感じた。（ex.週に一度、買い出しへ行く前に等）

●S　新鮮なうちに下ごしらえ

①取組実績（総数 1529）

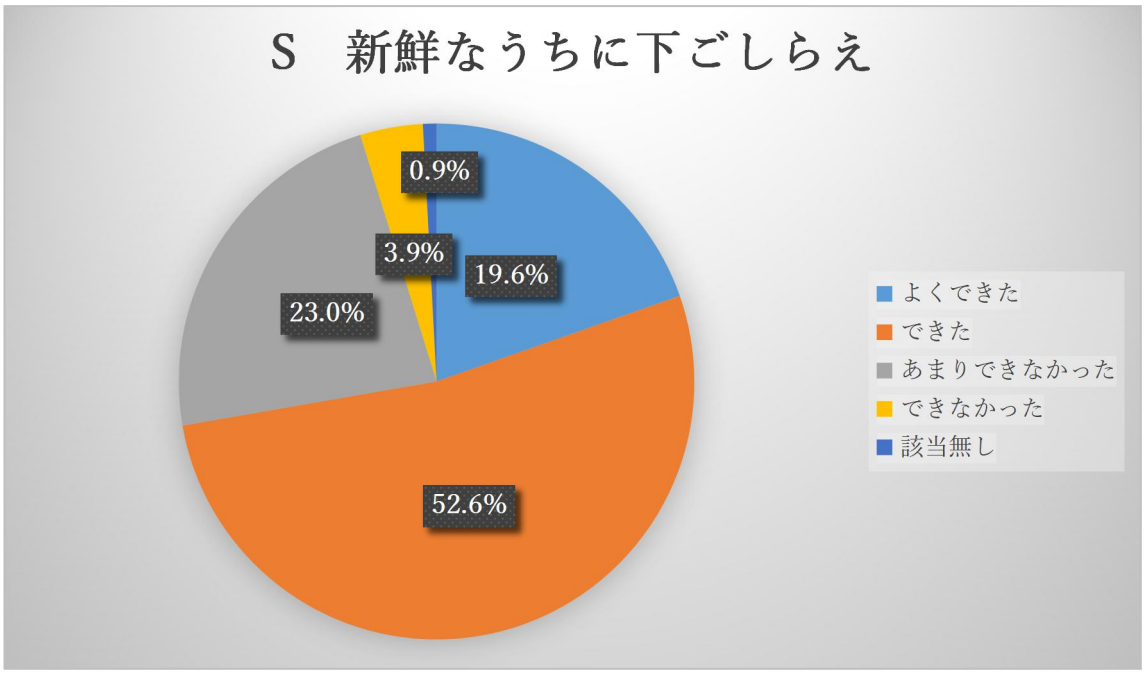
・よくできた　19.6%（300）

・できた　52.6%（805）

・あまりできなかった　23.0%（351）

・できなかった　3.9%（60）

・該当なし　0.9%（13）



②感想

【要旨】

多くの方が簡単な調理や小分けなどにした上で冷凍保存に取り組まれていた。仕事などで帰りが遅くなったときに取り組めなかったという意見もあったが、多くの方が休日に買い物に行った際に下ごしらえまで済ませてしまい、平日に調理されていると回答。中には、冷凍の際に日付を記入するという方法もあった。

魚や肉は期限が早いため注意して行うが、そちらを注視しすぎるあまり、野菜が傷んでしまったという意見も挙がった。

●N　並んだ商品手前から

①取組実績（総数 1529）

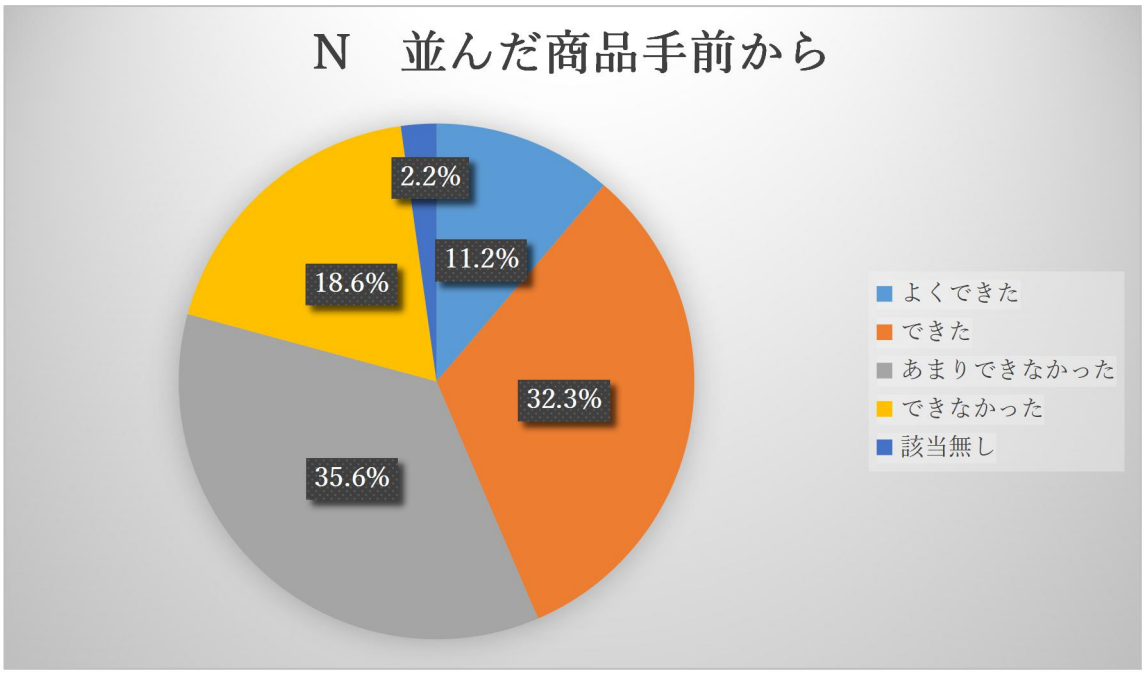
・よくできた　11.2%（172）

・できた　32.3%（494）

・あまりできなかった　35.6%（545）

・できなかった　18.6%（284）

・該当なし　2.2%（34）



②感想

【要旨】

理想と現実に乖離があり、比較的取り組みにくい項目であった。

理解はしているが、ついつい奥から取ってしまったという意見が目立った。やはり、買いだめをする際はどうしても期限の長いものを選んでしまうという意見が多かった。また、コロナ渦の状況から、多くの人が触れたものを避けるという観点から奥から商品を取ったという意見もあった。

ただ、すぐに食べるものや献立によっては手前から選ぶよう意識したという意見もあり、今回も含め、これまで行ってきた啓発が少しずつ根付いている印象も感じた。

●O　お互いさまでおすそ分け

①取組実績（総数 1529）

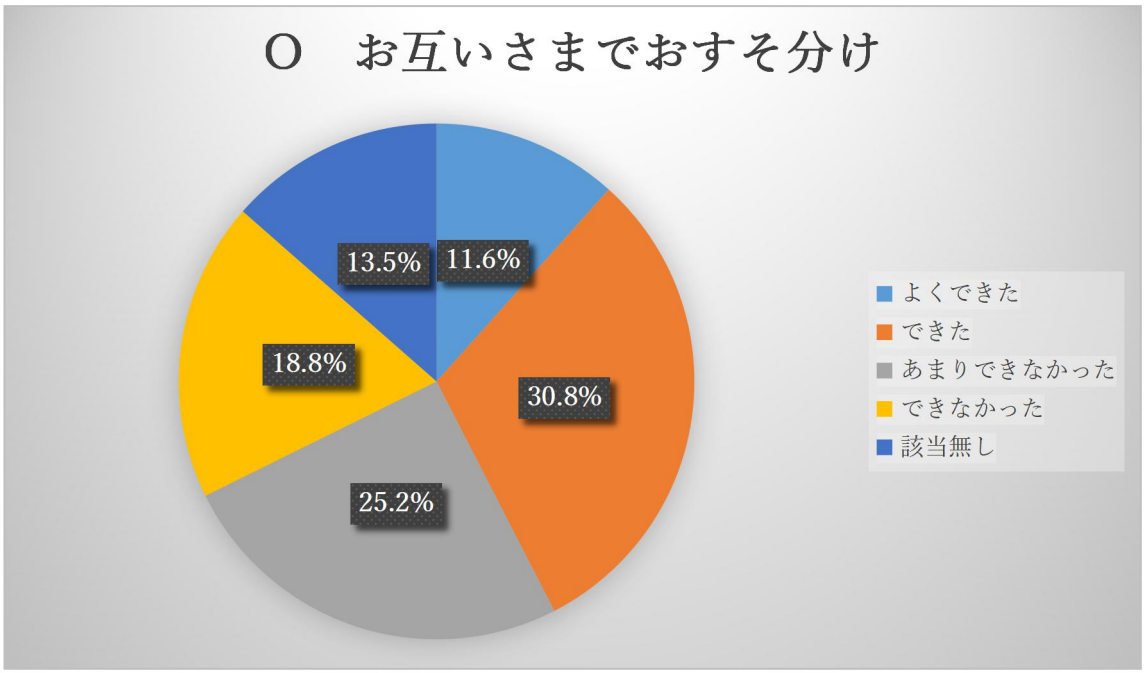
・よくできた　11.6%（178）

・できた　30.8%（471）

・あまりできなかった　25.2%（386）

・できなかった　18.8%（287）

・該当なし　13.5%（207）



②感想

【要旨】

昨今の情勢を鑑みて、取り組みにくい項目だった。

家でできた野菜を会社や近所へ持って行く、別居している家族へとおすそ分けできたという意見もある程度存在した。

しかし、コロナ渦でおすそ分けは厳しいという意見が多く見られた。

●N　残さず食べてごちそうさま

①取組実績（総数 1529）

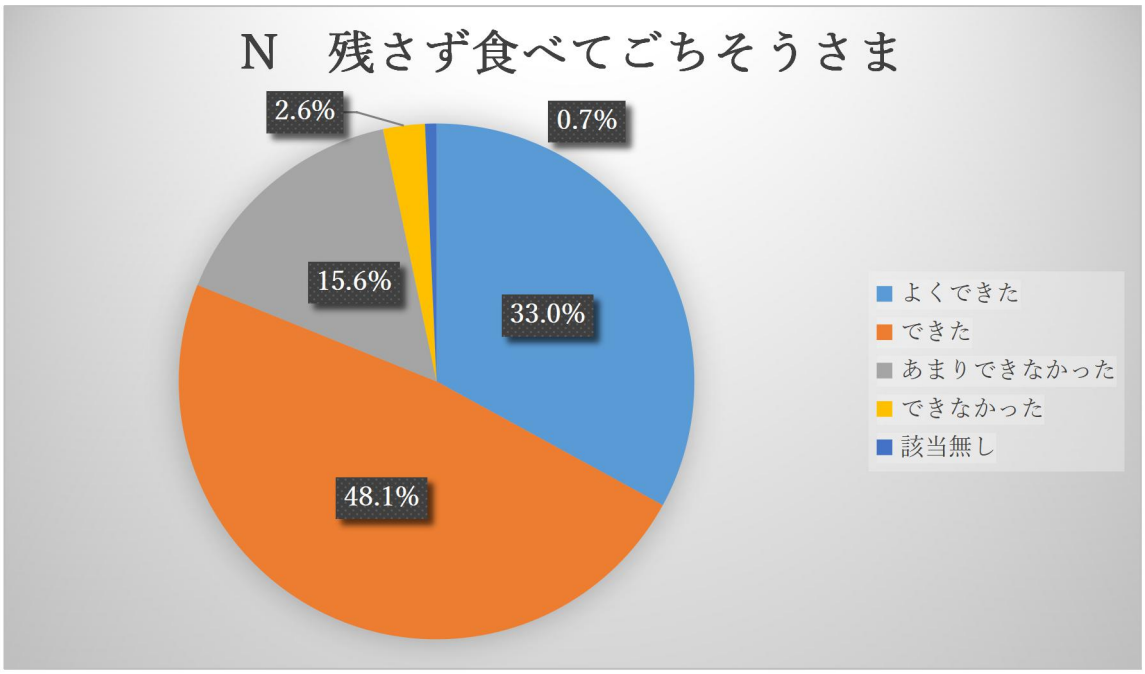
・よくできた　33.0%（504）

・できた　48.1%（736）

・あまりできなかった　15.6%（238）

・できなかった　2.6%（40）

・該当なし　0.7%（11）



②感想

【要旨】

食べ物は残さないということがある程度常識として根付いている印象の項目だった。健康上の理由で残してしまう場合を除き、ほとんどの方が取り組まれている。

また、仮に残ったとしても次の日に食べたり弁当にする、アレンジ料理にする等、様々な方法で、食品ロスが出ないように取り組まれていた。

２．「しまねの７ヶ条の」について効果があると思うもの

①最も効果的に感じた。（総数 1529）

・Ｌ　冷蔵庫の中身をチェック後お買い物　34.2%（523）　【１位】

・Ｏ　美味しく適量いただきます　13.5%（206）　【４位】

・Ｓ　週末は残り食材で作りましょう　１４.０％（214）　【３位】

・Ｓ　新鮮なうちに下ごしらえ　10.1%（155）　【５位】

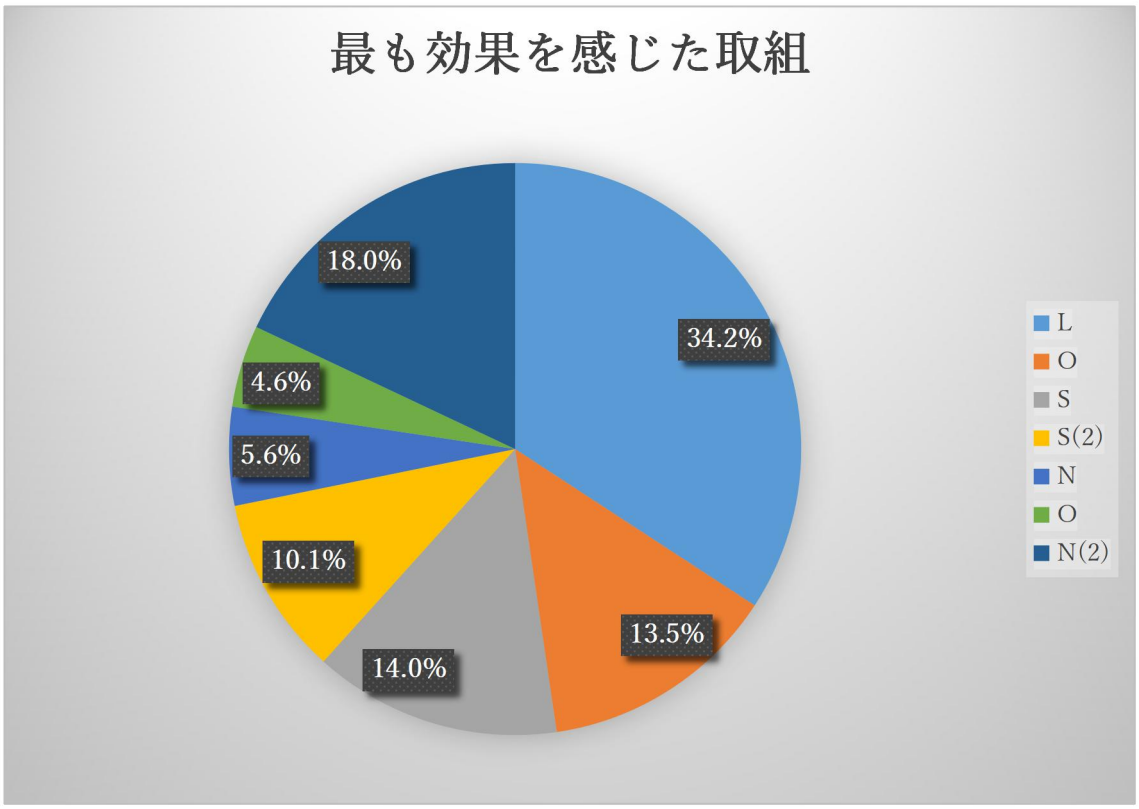
※グラフでの標記は S(2)とする

・Ｎ　並んだ商品手前から　5.6%（85）　【６位】

・Ｏ　お互いさまでおすそ分け　4.6%（71）　【７位】

・Ｎ　残さず食べてごちそうさま　18.0%（275）　【２位】

※グラフでの標記は N(2)とする



②効果があると感じた（最大３つまで）（総数 3710）

・Ｌ　冷蔵庫の中身をチェック後お買い物　1169　【１位】

・Ｏ　美味しく適量いただきます　557　【４位】

・Ｓ　週末は残り食材で作りましょう　605　【３位】

・Ｓ　新鮮なうちに下ごしらえ　484　【５位】

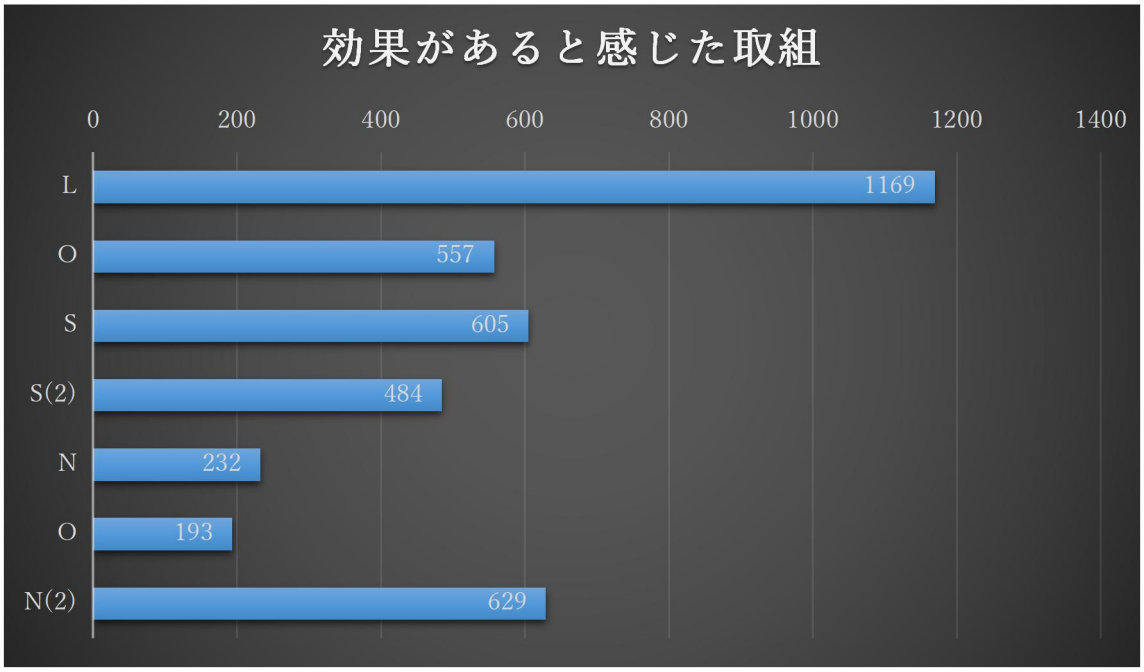
※グラフでの標記は S(2)とする

・Ｎ　並んだ商品手前から　232　【６位】

・Ｏ　お互いさまでおすそ分け　193　【７位】

・Ｎ　残さず食べてごちそうさま　629　【２位】

※グラフでの標記は N(2)とする



●最も効果を感じたものと効果があると感じたもの（最大３つまで）の集計結果は、全ての項目が同順位であった。

３．　全体を通して、実践してみた感想や改善点

まず、アンケート項目を実施して良かった点として、

・自分が思っていたより食品ロスが発生していたことが分かった

・冷蔵庫の中身をチェックして買い物へ行くようにする習慣がついてからは、
　無駄買いやダブって買うことが減った。環境にも財布にもエコだった

・実践してみて改めて食品ロス削減の大切さが今まで以上に感じられた、
　今回の取組で学んだことを本当に大切にしていきたい。

等の意見が見受けられた。

期間を決めて、実際に取組を行うことで、家庭から発生する食品ロスを認識し、どうすれば改善していけるかを考える機会になったという点で効果はあった。

実施してみた感想の中に、

・少しずつの努力が環境にも経済にも役立つこととなる

・裏面のタイプ別改善ポイントはとても参考になりました

・「使い切れる分だけ買う」「使い切るまで保存」これが実践できたらと思う。

・しまねの７ヶ条をこれからも心掛けて実践していこうと思う。

・これを契機に食品ロス削減の７ヶ条を意識して取り組んでいきたい。

・これからも食品ロス削減運動に取り組んでいきたい。

・結果的には本人次第で、啓発活動が一人一人の心に溶け込んでいくと食品ロスを妨げられると思う

等の意見が挙がっており、今回のような取組を行うことで、食品ロス削減を意識することが当たり前の事として、県民の方々に根付いていけば、家庭からの食品ロス量は減少していくのではないかと考察する。

次に、アンケート項目を実施してみて悪かった点・改善点として

・１日で適量という考え方ならできるが、
　毎食の適量摂取は無理な場合もあるのではないか。

・田舎ではまとめ買いが必須であり、商品手前からが一番実行しづらい。

・項目の中に並んだ商品手前からがある事自体おかしい。消費者は新しいものを求める。

という意見が挙がった。

手前の商品を取らないという意見について、賞味期限と消費期限の違いや商品の安全性について啓発を行ってきたつもりであったが、今後も正しい知識の普及啓発を継続していく必要性がある。

この取組を実践して良かった点、悪かった点・改善すべき点の意見を踏まえると、今回

あげた７つの取組を一律に全て行う必要はないと思われる。それぞれのライフスタイルに合わせて取組を行っていく姿勢が大切である。

　その上で、賞味期限と消費期限の違いなどの正しい知識を持って判断し、自分たちのライフスタイルに適した方法で食品ロス削減を図っていくことが家庭からの食品ロス削減に大切である。

　また、改善点として

・スーパーの割引きや半額の商品の近くに早めに食べてもらう言葉でも書いてあるといいなと思った。

という意見もあり、この意見は次年度の事業検討の際に参考とする。